

## 北朝コンフィデンシャル

米国トランプ大統領の任期4年中の目標は「ノーベル平和賞」と推測する。

それに合致する情報としては、スマホではトランプ系「2025/6 北朝鮮解放見込み」の嘘メールが踊る。中朝貿易なら「合法」で現実に有る。

夢物語「米朝貿易の開放」話は、常識論として期待され歓迎されるだろう。万が一、何らかの米国信用供与による米朝貿易ディールが現実になれば、日本にも中国にも「神風」が吹くことになる。世論も一気に風向きが「歓迎」に変わるだろう。

### 1 北朝の誕生

1949年9月9日に建国された「北朝」は、2022年9月に激動73年間(36.5×2, フィボナッチ数列 36.5 単位は五角形台)を乗切ってきた。親子三代の国家統治の稀有な教育と才能の血筋は、歴史上でも稀有である。政治体制に対する「西側」批判は兎も角として、である。

74・75年という歳月の長さは、例えば旧ソ連が1917年から1991年の74年、徳川幕府264年は家康征夷大将軍1603年から大政奉還1867年(74年の約3回転半)等。74という数字はそれなりに永い。

74に近い73を時間柄と捉えれば、正五角形の底辺から平行対角線までの高さ36.5の2倍の時間に当たる。正五角形一遍38.2の対角線61.8はフィボナッチ系の波動に関わる。また正五角形の内角和540°の1/16は77.14…。物理界の時間に係われば77年となれば、74年同様に政権寿命又は更新期にも掛る。1948～49年に誕生した国の政権は2025～26年に物理現象として第一回の更新期に入る。中国も北朝鮮もこの更新期サイクルにある国である。ただ、時間を波動と見立てた場合の話で、政経の予測とするとオカルト臭い。

### 2 強権の「米共和党」

2025年1月20日ドナルド・トランプ氏が米国で強権「共和党」第45代大統領に就任した。米国は1776年に独立し2026年に250年独立記念祭を迎える。また1865年4月9日南北戦争終結で2025年には奴隷解放160年。世界覇権光栄の1965年から60年目の2025年は正五角形内角540度で90度を経る時間帯に差掛かる。世界の政財界はトランプ対応が必須となる。

イスラエルはイランでコーランの淵底に挑み、露ウ戦争の泥沼は乾かない。この戦禍の世界でトランプ大統領は「ノーベル平和賞」を目指す。北朝米国は休戦も戦争中である。「点」をそり易いのは「米朝平和条約」。まずは米朝取引ディールで米国財政出動により北朝国民生活を支援する。

中国は強く怒るだろう。しかし今は金主席がロシアに軸足を移し既に中国の怒りを買っている。この場合、「北朝政権」は維持される工夫がされていることは当然である。また、上記第1項の「73年」を生き抜いた中国政権が倒れるなどというデマ的な話は検討の埒外である。

### 3 中国の出方

さあ中国はどうするか? 「中国は米朝平和条約を許さない」なら、トランプ政権は「中国ディール」に解決策を見いだせる。米国大手企業が米政府の超大型与信を得て、中国大手企業にひも付き融資する。融資を受けた中国大手企業が、北朝に大投資する(米国の超大型投融資)。

### 4 当初から分かりきっていた大問題

北朝の裏切りと表現する人もいるだろう。最後に、北朝は「デフォルト」政策をとる。どう米国が財政投融資の資金を回収するか当初から分かりきっていた大問題が残る。最後の落ちは「米政府は与信を回収できず、北朝が韓国を攻め取る」地獄絵である。しかし何としても世界の政財界は動く。

「取引」ディールである限り、米国は結局最後に、北朝が差出す「占領韓国」の財貨で与信を回収する。世の中はすっかり変わる。ここに論陣を張るには極めて異常で非常識である。

5 顧みれば、  
最初 2025 年に「北朝の財政破綻」が見えなかったが在った。働く者には「喰う飯だけは貰える」金政権運営でも、温存した 160 万軍隊の忠誠心は強く暴動は起きない(起きてても偽暴動)。働け

1

ない者は「餓死者」もでる程の農業不作は、2025 年も 2026 年も続く。  
政権維持が出来れば「餓死」には目を瞑るしかない国家運営は、それ自体に善悪はない。存続可否だけが自然の摂理としての「世の流れ」であつたらう。まずは、おしまい！

## 6. 地図 (Wikipedia)

中朝国境(ちゅうちょうこっきょう)は、中華人民共和国(中国)と朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)との間の国境である。国境線の総延長は約 1,420 km であるが河川の自然国境がその 93 % を占める。

中朝国境は、鴨緑江、白頭山(長白山)および豆満江(図們江)から成る。鴨緑江が全長の 56 % (795 km)、豆満江が 37 % (518km)を、白頭山が 7% (107 km)。東北側の豆満江の河口から約 17 km の地点が中露朝三国国境で、中露国境と露朝国境となっている。

中国の遼寧省丹東市は、国境の最大都市。対岸は北朝鮮の平安北道新義州市。2 つの都市は国境西端の黄海に面した鴨緑江デルタ上にあり、中朝友誼橋で結ばれる(2025 年 1 月現在中国により修復工事完了も、開通は中国が未許可)。

鴨緑江に 205 の島(中州)がある。1962 年の中朝国境条約で島の住民民族により所属国を分けた。北朝鮮は 127、中国は 78 の島を有する。黄金坪など一部の島は、川の中国側に位置するが北朝鮮に属する。デルタ地帯の鴨緑江は両国共に航行権を有している。鴨緑江の源流は白頭山の天池であり、ここは満州民族と朝鮮族の発祥の地であるとされる。この湖は、国境の東側を形成する豆満江の源流でもある。

## 7 中朝間の貿易

多くは丹東港で行わる。丹東の旅行者は、高速船に乗って鴨緑江の北朝鮮側の河岸やその支流に入ることができる。上記項目2で米国政府が、現実的なトランプディールとして、米国大企業が「中国大手企業」に迂回投資したとき、経済的に「北朝は財政上、解放される」。万が一、そうなれば、隣国には「神風」が吹く。北朝では売掛金は回収できない。だから「よる中国大手企業」による「北朝企業」との取引に頼るしかない。中国大手企業は、米国に与信で、北朝企業と貿易取引ができる。その限りにおいて、米国の大企業や日本の中小企業は、その中国大企業を通じて商売ができる。

その商売は、で始めでは、「食べ物」商売である。それも飢え死に寸前の国民大衆向けの「安価」が命の商品である。

㊦例えば「古古米」・「古古米の加工食品」・「雑穀」・「雑穀の加工食品」である。

㊦次には「貧乏で不潔な国民」が求めるものは、身の回り商品。

㊦例えば「石鹸」・「頭皮シャンプー」・女性は苦しくても買う「女性化粧品」。

㊦それに続くのは「衣料品」・小間物・電気製品等？

㊦次に外食の「Mac」・「ケンタッキーフライチキン」等が続くだろうか？

㊦スマホは北朝鮮政府が認めないだろう。

2

## 8 零細貿易

以上のような「貿易」は、大口ロットで、零細企業には日中貿易、日朝貿易は、現実的にはむづかしい。少し後発でも、「米」は日本の高級ブランド米「こしひかり」、化粧品は「資生堂」、衣料品は「ないき」、電化品は「パナ」等々を中国の対北朝鮮貿易の窓口会社に卸す手口はあるだろうか？ やってみるしかないかなあ…。それも今年2025年の春からもう準備い入らないと、「いざ…」というときには間に合わないであろう。

とにかく、「神風」の恩恵を受ける者にとっては、つまり、カネがあり、「運」のある経営者で、経営感覚が良い者には、一生に一度の商売の大チャンスが待っている。株式投資はその商売と並行して、又は、それ以後に続くであろう。おしまい！